保健科学部
モデルカリキュラム

作業療法学科

作業療法学科のカリキュラム

リハビリテーション（rehabilitation）医療が日本に芽吹いてすでに 50 年以上の歳月が流れ、「リハビリ」という略語も一般用語として世間に知られるようになってきました。しかし、その用語の認識も、動かない手足を動かしたり、歩行練習をしたりといった身体機能の回復を目的とした機能訓練に留まっているのも事実です。リハビリテーションの語源は「re（再び）」「habilis（適した、ふさわしい）」「ation（にすること）」です。それは、失った機能を取り戻すだけの治療的な関わりだけではなく、障害を負いつつも「その人がその人らしく人生きていく」ことを目的に、人生を再建していこうとする知識と技術の実践体系です。身体の機能に焦点を当てた「治す」という医学モデルの時代から、ともに生き、ともに暮してしていくという人間活動に焦点を当てた「生活モデル」の時代になっているのです。

作業療法は当初より、心と体のバランスを見つめ、障害者の生活を見つめてきました。実際的な支援の方法や理論などは時代とともに進化し、それとともにカリキュラムも変化してきました。しかし、心と体の関係を，誠意を持って真摯に見つめる作業療法士を養成するという教育の核が変化することはありません。また、当大学が掲げる「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念も変わることなく、個々の学生がもつ可能性を見つめ、知識と技術と誠意を持った作業療法士になる教育を教員一同念頭に置きながら行っています。

作業療法学科では、前述の理念のもとそれを具体的に実践するカリキュラムとして必修・選択あわせて 10 の大学共通基礎科目、16 の学部共通基礎科目、64 の専門教育科目を開講しています。これらの科目は大きく以下の分野に分かれています。

A：基礎分野
・科学的思考の基礎（情報処理、保健科学、医療統計学）
・人間と生活（語学、心理学、コミュニケーション論）
B：専門基礎分野
・人体の構造と機能及び心身の発達（解剖学、生理学、運動学、人間発達学など）
・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進（内科学、整形外科学、精神医学など）
・保健医療福祉とリハビリテーションの理念（リハ医学、公衆衛生学など）
C：専門分野
・作業活動分析学
・作業療法評価学／治療学
・地域作業療法学
・臨床実習

開講科目の具体的なつながりについては次頁の図のようになっています。A の基礎分野、B の専門基礎分野は主に医学概論や基礎医学や臨床医学であり、1 年次と 2 年次にかけて集中的に講義が行われます。これらは作業療法実践のベースとなる知識です。また、3 年次までにレクリエーション・インストラクターの資格を取得する科目を開講しています。以下、学年ごとのカリキュラムを概説します。

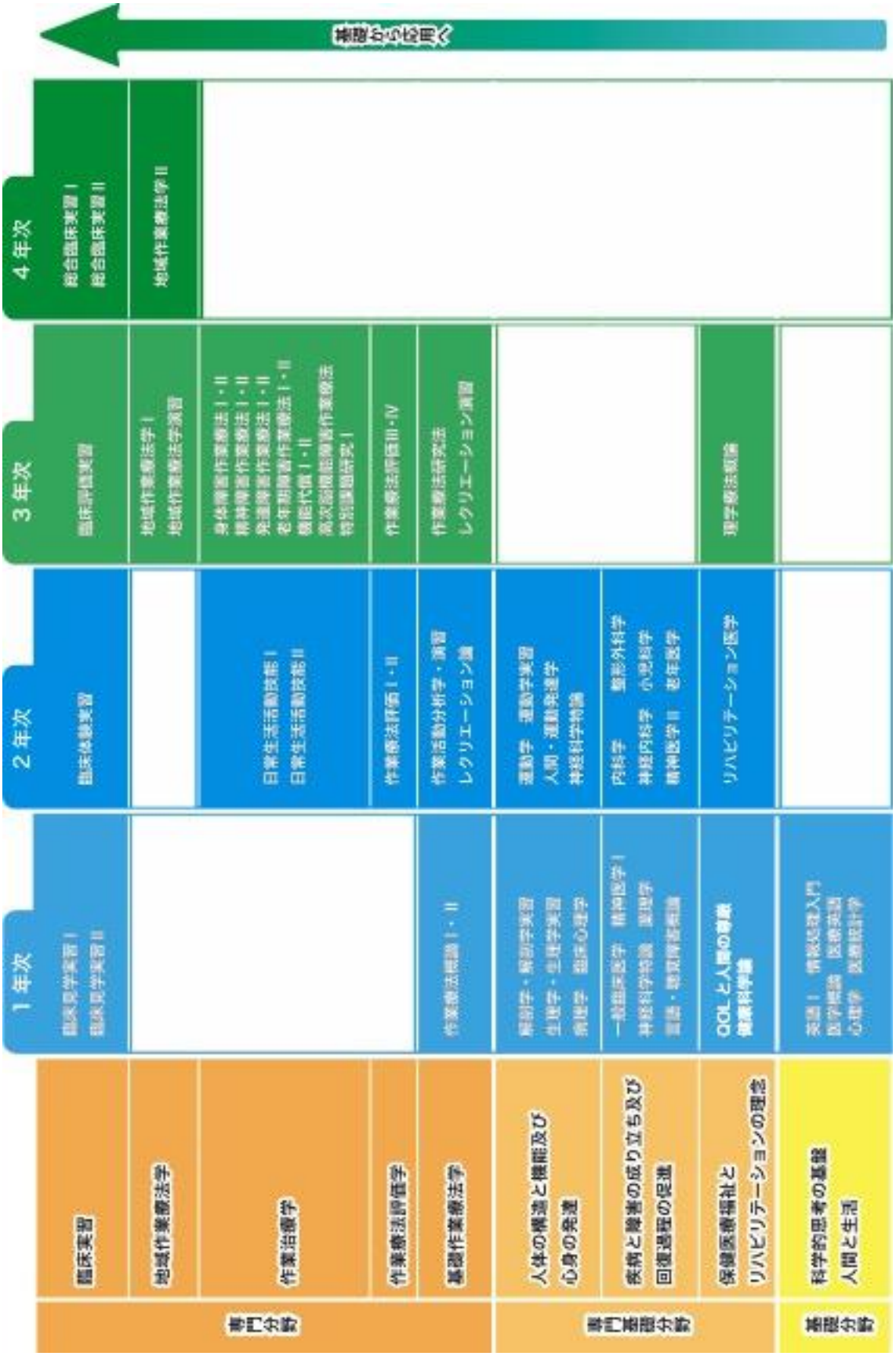
1 年次には，教養科目と基礎医学を中心とした科目が開講されます。1 年次期末の臨床見学実習では病院などの臨床場面で、現実の患者さんと触れ合い作業療法を目の当たりにすることで、社会人としての接遇や患者対応を身につける契機とします。

2 年次には，臨床医学や作業療法の専門基礎科目を中心とした科目が開講されます．2 年次期末の臨床体験実習では身体障害の病院や精神科病院などに通い、それまで机上で学んできた基礎医学や作業療法理論の知識の整理と技術の統合を図ります。

3 年次には、専門分野である作業療法の評価や疾患に応じた治療学、また介護保険や自立支援法などの社会の仕組みと関連した地域における作業療法など、より専門的で実践的な科目が開講されます。2 年次期末の臨床評価実習ではそれぞれの領域の病院や福祉施設で対象者の評価を行い、その障害像を構築し、患者理解の本質を実践します。

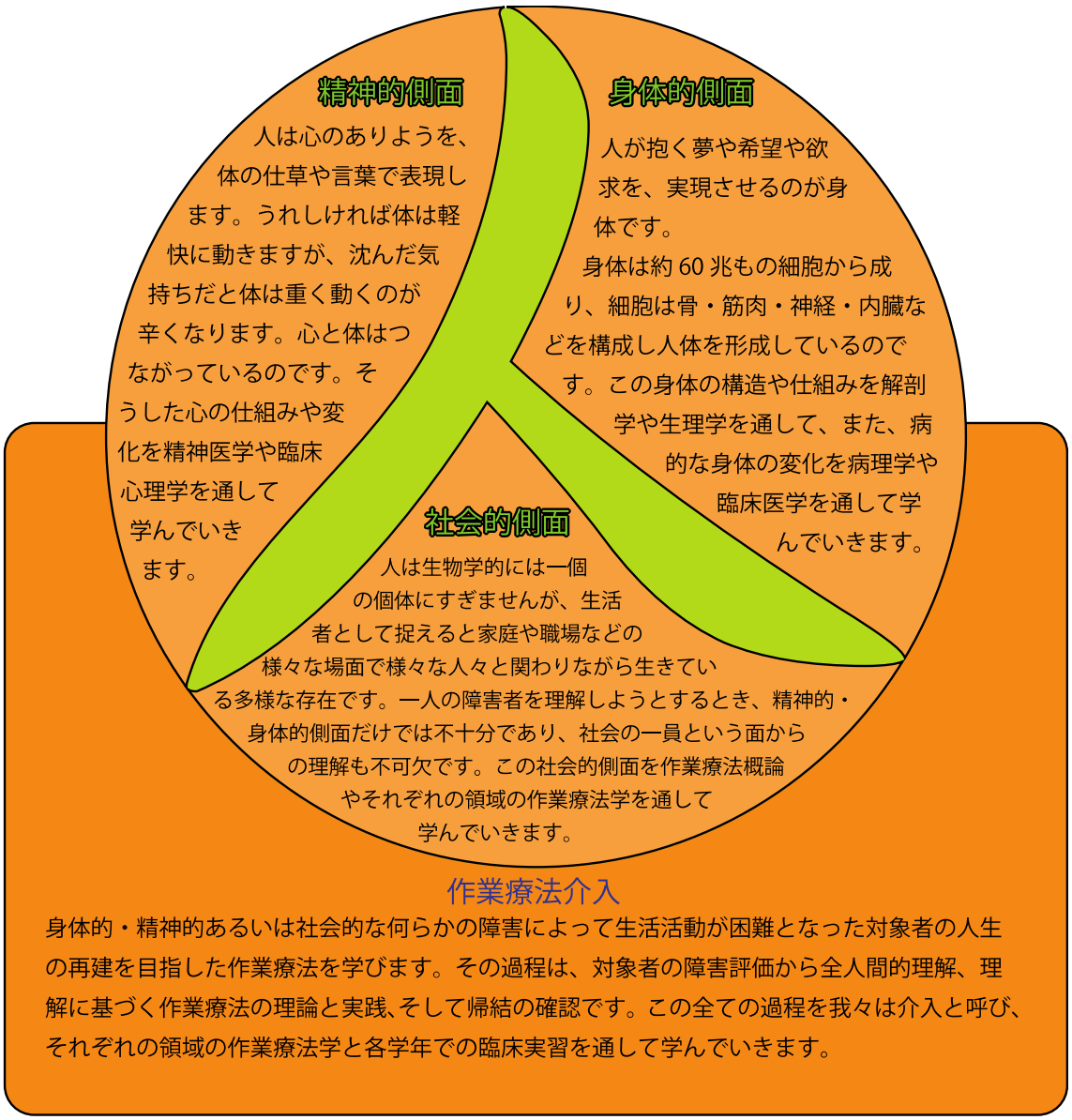
4 年次は 3 年間学んできた作業療法の総括です。ここでは臨床の場で実際の患者さんを担当し、実際の作業療法アプローチを体系的に実践する綜合臨床実習が行われます。病院や施設で長期間にわたって行われるこの実習は、未知への不安と成果に対する喜びが混在する貴重な体験になります。総合臨床実習を終えて帰ってくる学生の顔には、達成感や医療人人としての自覚が刻まれています。

総合臨床実習を終えると、いよいよ国家試験に向けての勉強が始まります。当該学年のチューターが受験対策を計画し，試験に向けての勉強方法や模試の作成などを行い，模試結果を分析し学習指導をしています.


1年次
2年次
3年次
4年次
臨床実習
地域作業療法学
作業治療学
作業療法評価学
基礎作業療法学
人体の構造と機能及び心身の発達
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
保健医療福祉とリハビリテーションの理念
科学的思考の基礎
人間と生活
専門分野
専門基礎分野
基礎分野
臨床見学実習Ⅰ
臨床見学実習Ⅱ
臨床見学実習Ⅲ
臨床体験実習
臨床評価実習
総合臨床実習Ⅰ
総合臨床実習Ⅱ
地域作業療法学Ⅰ
地域作業療法学Ⅱ
作業療法概論Ⅰ・Ⅱ
日常生活動作Ⅰ
日常生活動作Ⅱ
作業療法評価Ⅰ・Ⅱ
作業療法評価Ⅲ・Ⅳ
作業活動分析学・演習
レクリエーション論
運動学　運動学実習
人間・運動発達学
神経科学特論
内科学　整形外科学
神経内科学　小児科学
精神医学Ⅱ　老年医学
リハビリテーション医学
理学療法概論
QOLと人間の尊厳
健康科学概論
英語Ⅰ　情報処理入門
医学概論　医療英語
心理学　医療統計学
学習が進む段階

作業療法学科　カリキュラム委員会

以下の図は活動する人としての対象者の三つの側面と、そこに介入し支えるための作業療法教育の理念を図式化したものです。



以上、作業療法学科のカリキュラムの概要を説明しました。作業療法では「治療者自身も治療の道具である」といわれます。作業療法士自身の人柄や雰囲気や考え方が、障害受容や人生の再構築への意欲に直接作用するということです。そうした意味では知識や技術だけでなく、人としての成長も大切なのです。どの学生も多くの可能性を秘めています。きちんとした学力はもちろんのことですが、人としての成長も見守り、社会に有用な作業療法士を輩出していくことが教員一同の願いです。